

福島第一原発の汚染水発生量を抜本的に減らす対策

— 海洋放出開始後の実態を踏まえて —

福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ著

2024年7月31日刊行 A5判 52頁 頒価100円

送料: 8冊まで240円(30冊以上無料)

改訂新版
「海洋放出」を踏まえ
内容をより充実!



福島第一原発では2023年8月から「処理水」の海洋放出が始まりました。2024年3月までに放出された3万1千立方メートルにもおよび、放出されたトリチウムの総量は約4.5兆ベクレルに達しました。

一方で、汚染水そのものは日々発生し続けており、この間に発生した汚染水は、約1万7千立方メートルです。

このままでは海洋放出が30年で終了する見込みはなく、トリチウムやそれ以外の放射性物質による海洋汚染や風評被害が心配されます。

汚染水問題や「処理水」の海洋放出問題を解決するためには、今こそ汚染水の発生量を早急に、かつ抜本的に減らすことが必要です。

この冊子は、発行から2年となる地団研ブックレット16の内容を次のように更新しました。

1. どうしたら汚染水の発生量を減らすことができるかを、私たちの研究結果に基づいて、さらに分かりやすく解説しました。
2. 2023年8月から強行された「処理水」の海洋放出の実態や問題点について加筆しました。

今後のデブリ取り出しや長期にわたる廃炉作業を進める上でも汚染水対策は喫緊の課題です。

この冊子は、福島第一原発の汚染水問題や海洋放出問題について簡潔に学ぶことができます。ぜひ、ご一読ください。

目次

次

はじめに

I 福島第一原発の汚染水

- 1 汚染水はどのように発生するのか?
- 2 福島第一原発の立地と地下水
コラム (1) 地下水のはなし
コラム (2) 事故前から大量の地下水をくみあげていた
年表 (1) 福島第一原発建設計画から事故直後まで

II 課題の多い東電の汚染水対策

- 1 汚染水はなぜ増え続けるのか
- 2 汚染水対策をよくみると
コラム (3) タンクからの漏えいは軟弱な地盤が原因
コラム (4) 東電に求める情報公開

III 「切り札」と言われた対策の実態

- 1 「地下水バイパス」の計画は机上の空論
コラム (5) 原発団研と東電の地質断面図を比べる
- 2 凍土壁は地下水を防げたのか
コラム (6) 凍土壁に用いられた凍結工法とは
年表 (2) 汚染水問題表面化と汚染水対策の推移

IV 抜本的な対策の提案

- コラム (7) 集水井とは?

コラム (8) 地中連続壁とは?

コラム (9) 抜本的な対策の効果予測

コラム (10) 東電の「広域遮水壁評価」への反論

V 強行された海洋放出

- 1 汚染水の海洋放出の経緯
コラム (11) 疑問の多い海洋放出設備計画
コラム (12) 海洋放出は30年で終わるのか?
- 2 汚染水の海洋放出の問題点
コラム (13) 薄めてもダメ、「トリチウム水」
コラム (14) 放出されたトリチウム以外の放射性物質

VI 今すぐ抜本的な汚染水対策を

- 1 不十分な国・東電の汚染水抑制対策
- 2 抜本的な対策実施と調査・モニタリングを

私たちの活動について

- 1 原発団研の発足と活動の特徴
- 2 論文集の刊行
年表 (3) 海洋放出開始に至るまで

参考文献 / おわりに

地学団体研究会(地団研)は、大学教員・地質技術者・小中高の教員・学生・院生・一般の地学愛好者などで構成される日本学術会議の学術登録団体です。

URL: <https://www.chidanken.jp>

E-mail: chidanken@tokyo.email.ne.jp

「福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ」は、地学団体研究会の有志などで作る会です。福島第一原発の地質・地下水問題についての研究を行うとともに、地学団体研究会でのシンポジウムへの協力、各支部での勉強会の講師、脱原発団体や市民団体の勉強会の講師派遣などの活動を行っています。

本書のお申し込み・お問い合わせは下記にお願いいたします。

「福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ」担当: 金井克明 E-mail: kanai-jy@joetsu.jp、TEL: 090-2169-0566

